

多様な「遠野まごころネット」での活動

物資お届け

娘さん一家がお孫さんを連れて避難されたお家では、野菜がすごく喜ばれました。
(6月15日・陸前高田市にて)
第6陣の東さん(左端)と太田さん(右端)



要望の聴き取り

第1陣の勝本さん
(左から2番目・
5月23日)



畑の復“耕”

瓦礫を片づけた後の畑に残っている木くすをひろった後、塩分を吸い上げるという“ひまわりの種”をまき、畑の土を元にもどしていきます。
(7月11日・陸前高田市にて)
第8陣の前田さん



写真修復隊

瓦礫撤去の中で見つかったアルバム写真を洗浄、修復し持ち主へ。
(6月22日)
第5陣の前田さん



お花咲かせ隊

プランターに花を植え、仮設住宅にお届け。「お花でもあれば…」という要望の声から企画。
(写真は一般ボランティアの方・大船渡市)

お礼のお手紙が パルコープに届きました

遠野まごころネットを通じて物資をお届けしている、大槌町の小笠原さんより、パルコープへお礼のお手紙をいただきました。

前略

震災から数ヶ月、パルコープさんからはいろいろな品々、励ましの言葉を頂き心から感謝申し上げます。本当に思いもよらない天災で家を家財を全部流されました。

家族は全員無事でした。会社からの帰り、目の当たりに見えた光景はもう、涙を流しながら高台に登り、それからが大変でした。兄の家、そして山村の古民家を借り、今に至っています。

行政の支援より民間のパルコープさん、まごころの関さん、千葉さんからは大変お世話になりました。

今は前向きに生きる事を考え、不安もありますが老夫婦二人で、子、孫、そしてこれからの若い人達を思いながら頑張ります。

皆様本当に有難うございました。



大槌町の山奥に住んでおられる小笠原さん。津波で家を流され親戚の使っていない家に避難されています。始めは住める様な状態でなかったそうですが、ご主人が自分で住める状態にされたそうです。
(左から、まごころネット千葉さん、小笠原さんご夫妻、パルコープ第1陣の横山さん)

お絵描き隊

子どもに絵を描いてもらい、お話ししたりしてふれあう。心のケアになります。
(6月28日・釜石市)
第6陣の上田さん(左から2番目)



<第9陣> 7月16日~22日

支所・店舗職員など14名(内よどがわ市民生協の方2名、ならコープの方2名)

濱さん(寝屋川支所で寝屋川市の配送担当)、上田さん、木ノ瀬さん(鶴見支所で城東区の営業担当)、北野さん(都島支所で北区の配送担当)、房本さん(西くずは店で農産担当)、稲田さん、岡田さん(枚方公園店でレジサービス担当)、木下さん、中さん(忍ヶ丘店でレジサービス担当)、前川さん(システム経理部)、北園さん(よどがわ生協)、島田さん(よどがわ生協)、辻本さん(ならコープ)、秋崎さん(ならコープ)



仮設住宅に入居されたばかりの方が多く、台所用品セットは大変喜ばれていました。一人暮らしの年配の方も多く、セットの中に入っている手紙を見て、とても感動されていました。おおさかパルコープの組合員さんからご協力いただいた支援物資が本当に被災された方々にお役立ちできている事を実感する事ができ、とても嬉しく思いました。

ただ、入居されている方と話をさせていただき、「職がない」「住宅が山奥で買い物が大変」など、今後の不安を抱えている声も多く聞きました。

まだまだ支援を続けていかなければならないと改めて痛感しました。

(平野支所で平野区の配送担当・稲田さん)



お花咲かせ隊の活動で花をもっていくと、とても喜んで下さり、殺風景だった仮設住宅の周辺も、とても明るくなりました。震災前は、ほとんどの方が、農業をされており、畑仕事や庭の草木の手入れをされていたそうで、小さい花の苗ですが「毎日、水をやって大きくなっていくのが楽しみ」と言ってもらえました。小さな要望ですが、被災者の方々とボランティアとの継続的なつながりだからこそ、実現できた支援だと思えました。

(枚方公園店で畜産部門担当・木下さん)



高齢者一人暮らしの方から、「だんなが自分と少しの差で津波で亡くなった」とお聞きしました。私自身ができることは話をしっかりと聞くということしかできませんでした。現地での声をお聞きすることができ、今自分ができるとは何かを考えつけないと思えました。

(港支所で港区の配送担当・上田さん)



「食器セット(調理器具の入らない食器各種のセット)をお届けし喜ばれました。『ちよっとお皿が足りなかったんです』という声も。(右:北野さん)

被災地に寄り添い 見守ります